製品情報とサポートについては、
次にアクセスしてください。
www.philips.com/dictation

SPEECHMIKE AIR

LFH3020



EN	User manual	3
DE	Benutzerhandbuch	23
FR	Manuel de l'utilisateur	43
ES	Manual del usuario	63
IT	Manuale di istruzioni	83
JA	ユーザーマニュアル	103

PHILIPS

1	**重要**	**104**
2	**SpeechMike Air**	**107**
2.1	**同梱品**	**107**
2.2	**SpeechMike Airの概要**	**108**
2.2.1	ディクテーションマイクロホン	108
2.2.2	ドッキングステーション	109
2.2.3	レシーバーモジュール	109
3	**はじめに**	**110**
3.1	**ソフトウェアのインストール**	**110**
3.2	**ドッキングステーションの接続**	**110**
3.3	**電池の挿入**	**111**
3.4	**電池の充電**	**111**
3.4.1	ドッキングステーションとAC チャージャーによる充電	111
3.4.2	ドッキングステーションとUSB ケーブルによる充電	112
3.4.3	SpeechMikeから直接充電	112
3.5	**電池充電レベルについて**	**112**
3.6	**SpeechMikeの電源オン/オフ**	**112**
3.7	**ワイヤレス接続のマニュアル設定**	**113**
3.7.1	ドッキングステーションのワイヤレス接続の手動設定	113
3.7.2	レシーバーモジュールのワイヤレス接続の手動設定	113
3.8	**ワイヤレス接続について**	**114**
3.9	**節電モード**	**114**
3.10	**SpeechMikeとレシーバーの確認**	**114**
3.11	**ネックバンドの取り付け**	**114**
4	**SpeechMike Airの使用**	**115**
4.1	録音の作成	115
5	**SpeechMike Airの活用**	116
5.1	**SpeechMikeのカスタマイズ**	**116**
5.1.1	SpeechMikeキーと設定のカスタマイズ	116
5.1.2	アプリケーションショートカットの使用	117
5.1.3	ファームウェアの更新	119
5.2	**ヘッドセットまたは外付けマイクロホンで録音**	**119**
6	**技術データ**	**120**
7	**よくある質問**	**121**

重要

フィリップスは、いつでも製品を変更することができ、それに応じて過去に供給した付属パーツを変更する義務を負わないものとします。

本マニュアルの内容で使用すると、本システムを適切に使用できることが十分確認されています。ここに記載される用途以外に製品、モジュール、手順を用いる場合、妥当性および適切性があることを必ず確認してください。

安全性
- 回路のショートを避けるため、本製品を雨または水に濡らさないでください。
- 機器を加熱したり直射日光に当てたりして本デバイスを高温にさらさないでください。
- 特にプラグやユニットから出た部分のケーブルが絡まないよう保護してください。
- ワイヤレスデバイスは干渉の影響を受けやすく、性能に影響が生じる場合があります。
- ファイルをバックアップしてください。フィリップスはデータの損失に責任を負いません。

聴覚の安全性
ヘッドホンを使用する際は次のガイドラインを守ってください。
- 適当な音量で適当な時間だけ使用してください。
- 耳が慣れても音量を上げ過ぎないように注意してください。
- 周囲の音が聞こえなくなるまで音量を上げないでください。
- 危険性のある状況では注意して使用するか、一時的に使用を中止してください。
- 自動車、自転車、スケートボード等に乗っているときにヘッドホンを使用しないでください。交通事故を起こす危険があり、これらは多くの地域で違法行為となっています。

重要（ヘッドホン付属モデル）：
フィリップスは、関連規制当局が規定したオーディオプレーヤーの最大音響出力に適合することを保証しますが、これは付属ヘッドホンのオリジナルモデルで使用した場合に限ります。これらのヘッドホンを交換する必要がある場合、各販売代理店にオリジナルモデルと同じフィリップスモデルを注文してください。

小さなお子さま
お持ちのデバイスと機能強化パーツには小さなパーツが使用されている場合があります。小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。

動作環境
このデバイスは、耳に対して通常の使用位置で使用した場合、または体から2.2センチ（7/8インチ）以上離した位置で使用した場合、RF暴露ガイドラインに適合します。体に装着して使用する際にキャリーケース、ベルトクリップ、またはホルダーを使用する場合、それらに金属を使用していないこと、およびデバイスを体から上記距離以上離した位置で使用していることを確認してください。

本デバイスのパーツは磁気を帯びています。金属物質が本デバイスに誘引される場合があります。本デバイスの近くにクレジットカードや磁気記憶媒体を置かないでください。保存された情報が消えてしまう可能性があります。

医療機器
無線送信機器を使用すると、十分に保護されていない医療機器の機能に干渉する場合があります。RFエネルギーに対する保護が十分確保されているか確認したい場合、またはその他の質問等がある場合は、医師または医療機器のメーカーに相談してください。医療施設では、デバイスの電源を切るよう指示がある場合はそれに従ってくださ

い。病院または医療施設では、外部RFエネルギーの影響を受けやすい機器を使用している場合があります。

埋め込み医療機器
医療機器メーカーは、医療機器の干渉を防ぐために、ワイヤレスデバイスと埋め込み医療機器（ペースメーカーまたは埋め込み除細動器等）の間の距離を15.3センチ（6インチ）以上離すことを推奨しています。当該デバイスを使用するユーザーは以下の点に注意してください。

- ワイヤレスデバイスの電源をオンにしているときは、医療機器から必ず15.3センチ（6インチ）以上離してください。
- 胸ポケットにワイヤレスデバイスを入れないでください。
- 干渉が生じているかも知れないと感じたら、直ちにワイヤレスデバイスの電源を切ってください。
- 埋め込み医療機器メーカーの指示を読み、それに従ってください。

埋め込み医療機器と一緒にワイヤレスデバイスを使用する際の質問等は、医療従事者に相談してください。

補聴器
デジタルワイヤレスデバイスの中には補聴器と干渉するものもあります。干渉が生じた場合、サービス提供者に問い合わせてください。

自動車
自動車に正しく設置されていない電子システムまたは十分に保護されていない電子システムがある場合（燃料噴射システム、電子滑り止め（アンチロック）ブレーキシステム、電子速度制御システム、エアバッグシステム等）、RF信号の影響を受ける場合があります。詳細については、お持ちの自動車または追加した機器のメーカーまたは販売代理店までお問い合わせください。

本デバイスの点検修理または車両への取り付けは、資格を受けた者のみが行ってください。取り付け方法や点検修理方法を間違った場合、危険が生じる可能性があり、また、本デバイスに適用される保証が無効になることがあります。自動車のすべてのワイヤレスデバイスが正しく装着され適切に動作するか定期的に確認してください。可燃性液体、ガス、爆発物を本デバイス、パーツ、機能強化パーツと同じ場所に保管しないでください。エアバッグ装着車両の場合は、エアバッグが大きな力で膨張することに注意してください。

航空機内で本デバイスを使用することは禁止されています。機内に入る前にデバイスの電源をお切りください。航空機内でワイヤレス通信機器を使用すると、航空機の性能に悪影響が生じたり、ワイヤレス電話網を妨害することがあり、使用することは違法となる場合があります。

爆発の可能性がある環境
爆発の可能性のある環境下ではお持ちのデバイスの電源を切り、すべての表示と指示に従ってください。爆発の可能性のある環境には、自動車のエンジンを切るよう通常指示される場所が含まれます。このような場所で火花を起こすと爆発や火災の危険があり、怪我をしたり、最悪の場合は死亡することもあります。ガソリンスタンドの給油場所等では本デバイスの電源をお切りください。燃料貯蔵所、保管所、流通エリア、薬品工場、または爆破が発生している場所で無線機器を使用する際は、制限事項を守ってください。

爆発の危険性がある場所は、通常危険性が表示されていますが、必ずしも明確に危険性が表示されていない場合もあります。当該場所には、ボートデッキの下、薬品輸送または保管施設、大気に薬品や粒子（穀物、埃、金属粒子等）が含まれる場所が該当します。LPガス（プロパンまたはブタン）を使用する自動車の場合、本デバイスを近くで使用しても安全かどうかは、各メーカーに確認してください。

EMFへの適合

Koninklijke Philips Electronics N.V.は、通常の電子機器と同様に電磁信号を送受信することができる製品を消費者をターゲットとして数多く製造および販売しています。フィリップスのビジネス原則の一つに、適用されるすべての法的規制に適合し、かつ製品生産時に適用されるEMF基準に適合するために必要なすべての健康、安全性対策を取ることがあります。フィリップスは、副作用を生じさせない製品の開発、生産、販売を実行しています。フィリップスは、生産する製品を用途に従って正しく使用した場合、今日の科学的証拠に基づき安全に使用することができることを約束します。フィリップスは、国際EMFおよび安全基準の開発に積極的な役割を果たし、それらが製品に早く標準化されることを目指しています。

クリーニングおよび消毒

- クリーニング前にデバイスのプラグを外します。
- 柔らかい布を使い、必要であれば水や希釈した低刺激石鹸水で少しだけ湿らせ、本製品の汚れを取り除きます。
- 医療施設内の表面および患者治療機器の消毒用製品（表面消毒タオル等）を使用して本デバイスの汚れを取り除くことができます。
- 刺激の強い薬品や強力な洗剤は使用しないでください。
- 堅いもので表面をこすったりぶつけたりしないでください。表面が回復できない程度に傷付いたり破損する恐れがあります。

古くなった製品の処分

- お持ちの製品は高品質原料とコンポーネントで設計、製造されており、リサイクルおよび再使用することができます。
- この車輪付きゴミ箱に×が付いた記号が製品に記載されている場合、当該製品が欧州指令2002/96/ECの対象であることを示しています。



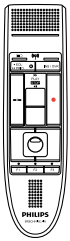
- 各地域における電気製品および電子製品の個別収集制度について確認しておいてください。
- 古くなった製品は、各地域の規制に従って処分し、一般家庭ごみとして処分しないでください。古くなった製品を正しく処分することで、環境や人体への悪影響を防ぐことができます。
- 電池（内蔵充電式電池）には環境汚染源となる物質が含まれます。電池は必ず指定収集場所に廃棄してください。

2 SpeechMike Air

ご購入頂きありがとうございます。ようこそフィリップスへ！

フィリップスのサービスを最大限活用できるよう、ユーザーマニュアル、ソフトウェアのダウンロード、保証情報等が記載された当社ウェブサイト www.philips.com/dictationまでアクセスしてください。

2.1 同梱品



ディクテーションマイクロホン



ドッキングステーション



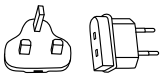
レシーバーモジュール



ネックバンド



ACチャージャー



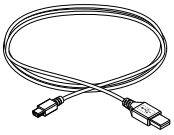
交換式充電ピン



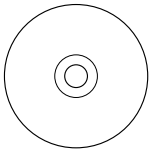
充電式電池



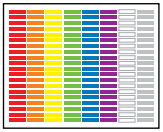
ポーチ



USBケーブル



ソフトウェアとユーザーマニュアルが記録されたCD-ROM



カラーステッカー

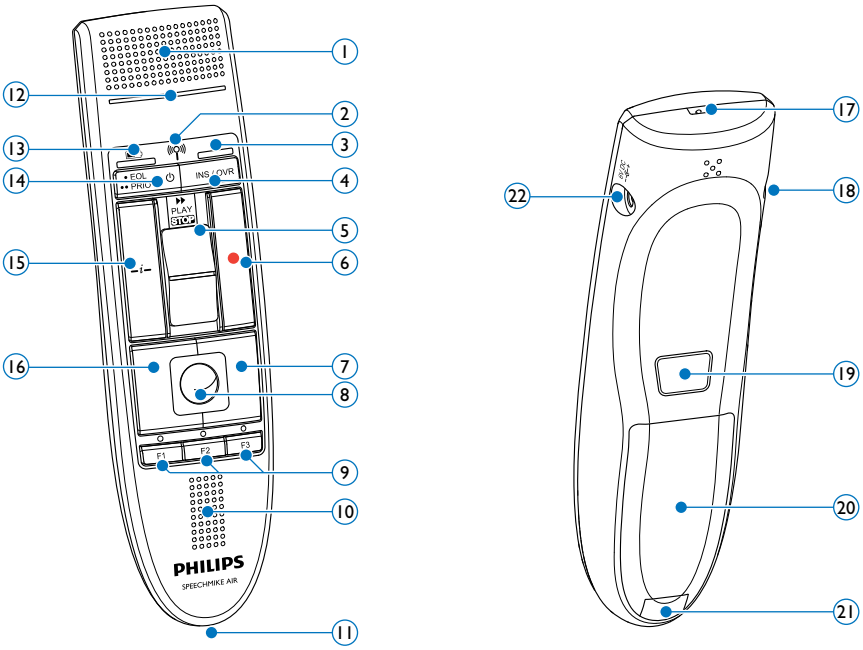


クイックスタートガイド

JAPANESE

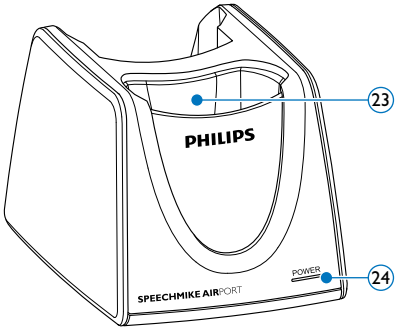
2.2 SpeechMike Airの概要

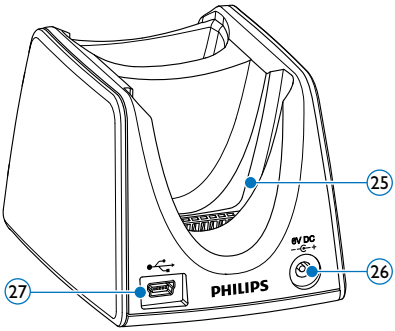
2.2.1 ディクテーションマイクロホン



① マイクロホン
② ワイヤレス接続インジケーターライト
③ 挿入インジケーターライト
④ INS/OVR挿入/上書きキー
⑤ スライドスイッチ（早送り、再生/録音、停止、巻き戻し）
⑥ ● 録音キー
⑦ 右マウスボタン
⑧ トラックボール
⑨ F1、F2、F3プログラム可能ファンクションキー
⑩ スピーカー
⑪ ドッキングステーションコネクター
⑫ 録音インジケーターライト
⑬ 充電レベルインジケーターライト
⑭ オン/オフ、• EOLエンドオブレターキー、•• PRIOプライオリティーキー
⑮ –*i*– 操作説明キー
⑯ 左マウスボタン
⑰ ストラップ穴
⑱ ヘッドセットコネクター
⑲ 左マウスボタン
⑳ 電池カバー
㉑ 電池カバーリリースボタン
㉒ チャージャーコネクター

2.2.2 ドッキングステーション

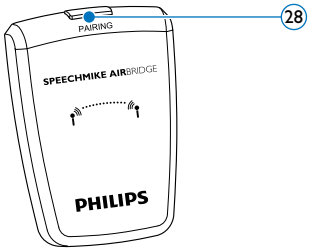




㉓ SpeechMikeドッキングスロット
㉔ 電源インジケーターライト

㉕ レシーバーモジュールドッキング スロット
㉖ チャージャーコネクター

㉗ ミニUSBコネクター





2.2.3 レシーバーモジュール

㉘ ペアリングキー
㉙ USBコネクター
㉚ ドッキングステーションコネクター

3 はじめに

3.1 ソフトウェアのインストール

SpeechMikeを使用してディクテーションの録音または再生を行うには、*Philips SpeechExec*等のディクテーションソフトウェアをパソコンにインストールする必要があります。*Philips SpeechExec*以外のディクテーションソフトウェアを使用する場合は、SpeechMikeの接続前にドライバーソフトウェアをインストールする必要があります。

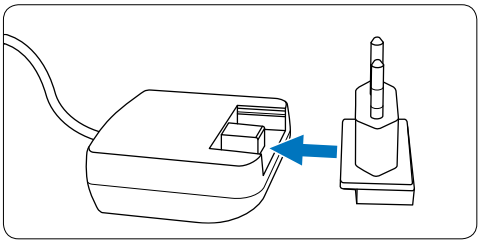
重要

ソフトウェアのインストールには管理者権限が必要です。詳細は管理者までお問い合わせください。

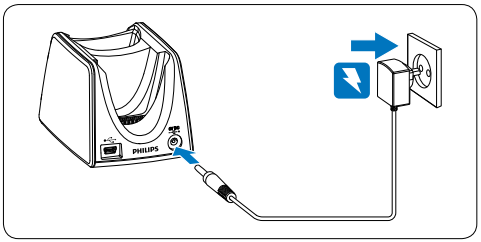
1. パソコンの電源を入れます。
2. CD-ROMドライブにインストールCDを挿入します。セットアッププログラムが自動的に始まります。始まらない場合、エクスプローラーでCDコンテンツを開き、*autorun.exe*ファイルをダブルクリックします。
3. インストールボタンをクリックします。
4. セットアッププログラムの画面上の指示に従ってください。

3.2 ドッキングステーションの接続

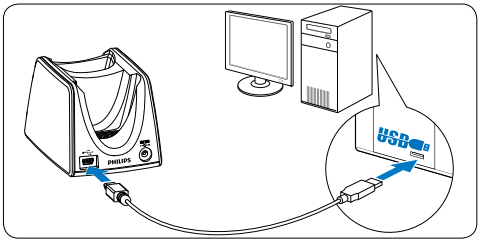
1. チャージャーにはプラグ4本が付属し、1つは多くの欧州国用、1つはイギリス用、1つは米国およびカナダ用、1つはオーストラリア用です。初めてチャージャーを使用する前に、各国のコンセントに正しいプラグを選択し、電源アダプターに装着してください。



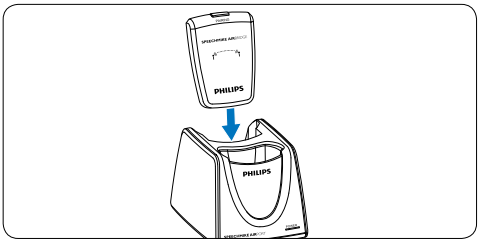
2. チャージャーを壁コンセントに接続し、チャージャーケーブルをドッキングステーションのチャージャーコネクターに接続します。

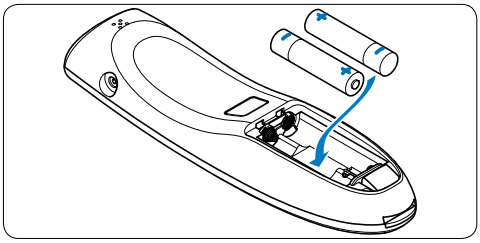


3. USBケーブルをパソコンのUSBポートとドッキングステーションのミニUSBコネクターに接続します。



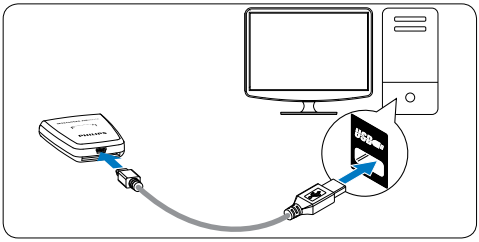
4. レシーバーモジュールをドッキングステーションの対応するスロットに挿入し、ロックされるまで押し込みます。





ヒント

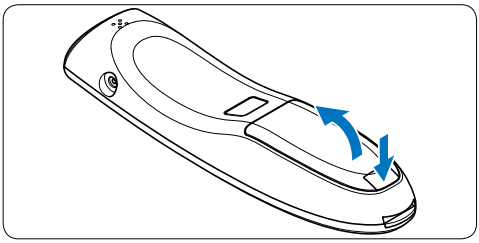
モバイルユーザーについては、USBケーブルを使用して直接パソコンに接続すれば、ドッキングステーションを使用しなくてもレシーバーモジュールを使用することができます。



3.3 電池の挿入

SpeechMikeは充電式フィリップス電池LFH9154または単4アルカリ電池で動作します。

1 電池カバーリリースボタンを押し、電池カバーを開きます。



2 記載通りに正しい極性で電池を挿入し、カバーを閉じます。

注記

- 異なるタイプやメーカーの電池を混ぜて使用しないでください。
- SpeechMikeを長期間使用しない場合は、電池を外してください。電池漏れが起こるとSpeechMikeが損傷する恐れがあります。
- 電池を交換する前に録音を停止してください。録音中に電池を外すとデータが失われる場合があります。

3.4 電池の充電

充電式フィリップス電池LFH9154は、USBケーブルまたはACチャージャーとドッキングステーションを使って、SpeechMikeで充電することができます。ACチャージャーをSpeechMikeに直接接続して電池を充電することもできます。完全に充電するには約2.5時間かかります。

警告

純正チャージャーのみを使用してください。他社製チャージャーを使用するとデバイスが損傷する場合があります。

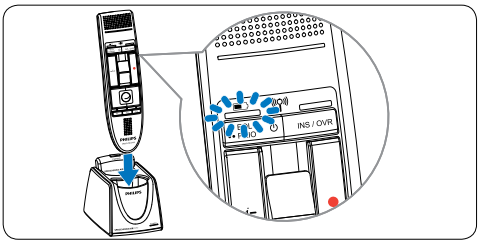
注記

- 付属フィリップス電池LFH9154以外の電池は充電できません。
- 初めて使用する前に電池を完全に充電してください。

3.4.1 ドッキングステーションとACチャージャーによる充電

充電式フィリップス電池LFH9154は、ACチャージャーとドッキングステーションを使って、SpeechMikeで充電することができます。

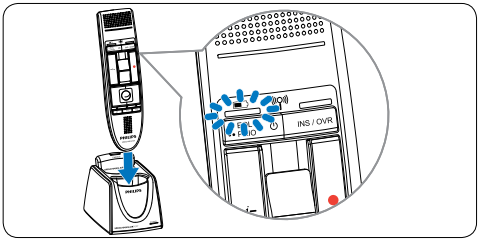
1 ACチャージャーをドッキングステーションに接続してください（詳細については第3.2章を参照してください）。
2 SpeechMikeをドッキングステーションの対応するドッキングスロットに挿入し、ロックされるまで押し込みます。
- 充電中は電池充電レベルインジケーターが点滅します。
- 電池充電レベルインジケーターは、充電が完了すると緑色になります。



3.4.2 ドッキングステーションとUSBケーブルによる充電

充電式フィリップス電池LFH9154は、USBケーブルとドッキングステーションを使って、SpeechMikeで充電することができます。

1 USBケーブルを使ってドッキングステーションをパソコンに接続してください（詳細は第3.2章を参照してください）。
2 SpeechMikeをドッキングステーションのドッキングスロットに挿入し、ロックされるまで押し込みます。
- 充電中は電池充電レベルインジケーターが点滅します。
- 電池充電レベルインジケーターは、充電が完了すると緑色になります。

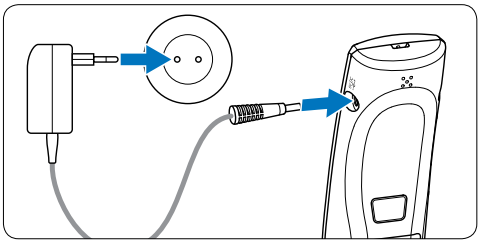


注記
- USBケーブルで充電する場合はパソコンの電源を入れてください。
- パソコンのUSBポートの電源量が不足する場合、ACチャージャーを使用してください。

3.4.3 SpeechMikeから直接充電

充電式フィリップス電池LFH9154は、ACチャージャーをSpeechMikeに直接接続してSpeechMikeで充電することができます。

1 チャージャーを壁コンセントに接続し、チャージャーケーブルをSpeechMikeのチャージャーコネクターに接続します。



3.5 電池充電レベルについて

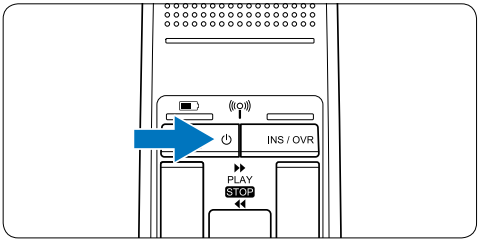
SpeechMikeの電源を入れた直後、またはSpeechMikeをドッキングステーションに装着した直後は、電池充電レベルインジケーターライトが電池ステータスを表します。

電池充電レベルインジケーター	電池ステータス
緑色	充電残り30%未満
オレンジ色	充電残り30%未満
赤色	充電残り10%未満

電池充電レベルインジケーターは録音時間残り30秒のとき赤色に点滅します。

3.6 SpeechMikeの電源オン/オフ

1 SpeechMikeの電源を入れるには、オン/オフを5秒程度押し続けます。電池インジケーターが点灯します。



2 SpeechMikeの電源をオンにすると、ドッキングステーションに自動的に再接続されます。
- 接続確立中はSpeechMikeのワイヤレス接続インジケーターが青色に点滅します。
- 正常に接続すると、青色インジケーターが点灯状態になります。
- 自動ワイヤレス接続に失敗した場合、手動で接続を設定してください（下記参照）。

3 SpeechMikeの電源を切るには、オン/オフを5秒程度押し続けます。SpeechMikeからビープ音が発生し、電池インジケーターが短く赤色に点灯します。

3.7 ワイヤレス接続のマニュアル設定

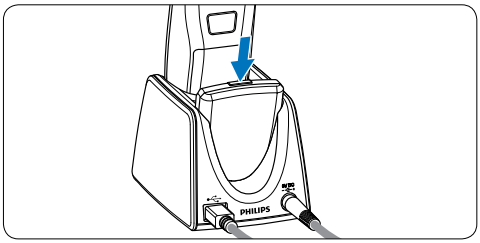
SpeechMikeおよびレシーバーモジュールは、工場出荷時設定でペアリングされており、通常は手動接続は不要です。自動ワイヤレス接続が失敗したり、SpeechMikeを他のレシーバーモジュールとペアリングしたい場合は、手動で接続設定してください。

3.7.1 ドッキングステーションのワイヤレス接続の手動設定

1 レシーバーモジュールがドッキングステーションに挿入されているか確認してください。

2 SpeechMikeの電源を入れ、ドッキングステーションのドッキングスロットに挿入し、ロックされるまで押し込みます。

3 レシーバーモジュールのペアリングキー[PAIRING]を3秒間押したままにします。
- レシーバーモジュールがペアリングモードになり、ペアリングキーが素早く青色に点滅します。
- 接続が成功すると、SpeechMikeのワイヤレス接続インジケーターとレシーバーモジュールのペアリングキーが青色に点灯します。

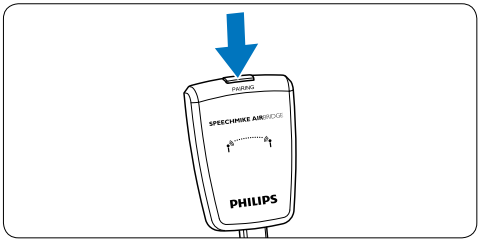


3.7.2 レシーバーモジュールのワイヤレス接続の手動設定

ドッキングステーションなしでレシーバーを使用する場合、以下のステップを実行してワイヤレス接続のマニュアル設定を行ってください。

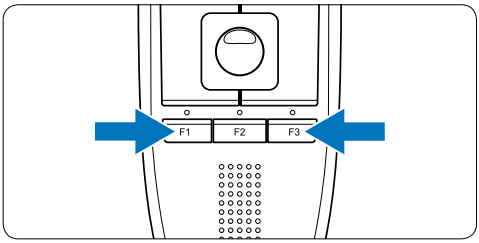
1 レシーバーモジュールをUSBケーブルでパソコンに接続し、パソコンの電源が入っているか確認してください。

2 レシーバーモジュールのペアリングキー[PAIRING]を3秒間押したままにします。レシーバーモジュールがペアリングモードになり、ペアリングキーが素早く青色に点滅します。



JAPANESE

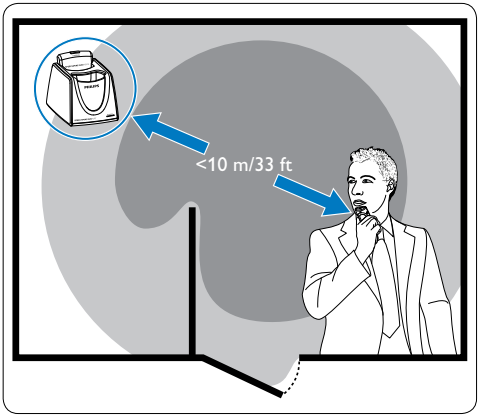
3 SpeechMikeの電源を入れ、ファンクションキーF1とF3を同時に1秒間押します。
接続が成功すると、SpeechMikeのワイヤレス接続インジケーターとレシーバーモジュールのペアリングキーが青色に点灯します。



3.8 ワイヤレス接続について

SpeechMikeはワイヤレス技術を使ってディクテーションマイクロホンとドッキングステーションを接続します。

ワイヤレス接続は、ディクテーションマイクロホンとドッキングステーションが見える範囲になくても可能ですが、デバイス間の最大距離は10メートル（33フィート）です。デバイスの距離が近い方が接続性が良くなります。最適な動作範囲は図の濃い灰色部分です。接続は距離や障害物（明るい灰色）またはその他の電子機器によって干渉を受けることがあります。



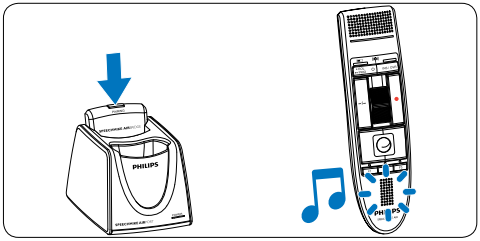
ドッキングステーションの受信エリアを離れると、バイブレーション警告によってドッキングステーションとディクテーションマイクロホンのワイヤレス接続が不安定になっている可能性を通知します。ワイヤレス接続が切断されると、ディクテーションマイクロホンから警告音が鳴ります。

3.9 節電モード

SpeechMikeは2時間以上使用しないと、自動的に電源が切れて電池寿命を節約します。電池インジケーターが点灯するまでオン/オフを押してユニットの電源を入れます。

3.10 SpeechMikeとレシーバーの確認

1 レシーバーモジュールの[PAIRING]キーを短く押します。
このレシーバーモジュールに接続したSpeechMikeからビープ音が発生します。



3.11 ネックバンドの取り付け



4 SpeechMike Airの使用

本章では、*Philips SpeechExec*ディクテーションソフトウェアでSpeechMikeを使用する方法について説明しています。SpeechMikeを*Philips SpeechExec*以外のソフトウェアで使用する場合、使用できない機能や異なる動作をする場合があります。詳細については、ソフトウェアに付属する説明書を参照してください。

4.1 録音の作成

1. ドッキングステーションまたはレシーバーモジュールは、USBケーブルでパソコンに接続し、スライドスイッチは STOP の位置にしてください。
2. SpeechExecディクテーションソフトウェアを起動します。
3. ●録音キーを押して新しい録音を作成し、録音スタンバイモードに入ります。
   - レコーダーウィンドウが表示されます。
   - 録音インジケーターライトが赤色（上書きモード時）または緑色（挿入モード時）に点滅します。
4. スライドスイッチを再生に合わせ、会話を開始します。
   録音中は録音インジケーターライトが赤色（上書きモード時）または緑色（挿入モード時）に点灯します。
5. 一時停止する場合、スライドスイッチを STOP に合わせます。録音を続けるには、スライドスイッチを再生位置に戻します。
6. 録音を停止するには、スライドスイッチを STOP 位置に動かし、●録音キーを押します。
7. •EOL/••PRIOキーを押して録音を終了としてマークします。
   - ディクテーションファイルはFinished dictationフォルダーに移動します。
   - レコーダーウィンドウが閉じ、ワークリストウィンドウが表示されます。
8. 録音に優先ステータスを割り当てるには、0.5秒以内にもう一度•EOL/••PRIOキーを押します。

注記

- 最適な結果を得られるように、はっきりと話し、マイクロホンを口元から10センチから15センチ（4インチから6インチ）の距離に保ちます。
- ドッキングステーションとディクテーションマイクロホンの最大距離は10メートル（33フィート）です。ドッキングステーションの受信エリアを離れると、バイブレーション警告によってドッキングステーションとディクテーションマイクロホンのワイヤレス接続が不安定になっている可能性を通知します。その時は、受信エリアに戻ってください。ワイヤレス接続が中断した場合、ディクテーションマイクロホンからビープ音が発生し、ディクテーションソフトウェアが録音を停止します。ワイヤレス接続に関する詳細については、114ページのワイヤレス接続についてを参照してください。

5 SpeechMike Airの活用

5.1 SpeechMikeのカスタマイズ

SpeechMikeを各ユーザーのニーズに合わせてカスタマイズするには、デバイスコントロールセンターソフトウェアを使用します。

このソフトウェアは、各キーに異なる機能を割り当てることができ、特定の機能を有効/無効にしたり、SpeechMikeでアプリケーションを起動したりコントロールすることができます。

5.1.1 SpeechMikeキーと設定のカスタマイズ

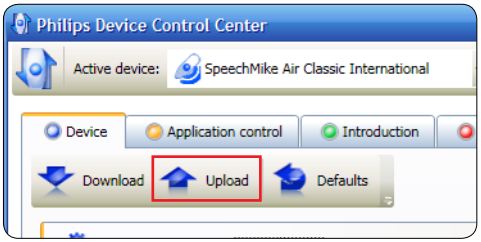
1. ドッキングステーションがUSBケーブルでパソコンに接続されていること、およびディクテーションマイクロホンへのワイヤレス接続が確立されていることを確認します。
2. インストール中にデバイスコントロールセンターを自動的に起動するオプションを選択している場合、Windowsタスクバーの通知エリアのアイコンをクリックしてプログラムを開きます。プログラムをマニュアルで起動するには、Windowsスタートメニューを開きすべてのプログラム>Philips Speech Control>Philips Device Control Centerを選択します。現在の設定は接続した*SpeechMike*から自動的にダウンロードされます。



3. デバイスタブで、デバイス設定を設定し、各キーに割り当てる機能を選択します。



4. アップロードボタンをクリックして新しい設定を保存します。



注記

- SpeechMikeの電池充電レベルが10 %未満の場合（電池充電レベルインジケーターが赤色の場合）、設定は変更することができません。設定を変更する前にディクテーションマイクロホンを充電してください。
- SpeechMikeはデフォルトボタンをクリックして工場出荷時設定にリセットすることができます。アップロードボタンをクリックしてデフォルト設定を保存します。

ヒント

設定とキーの機能をテストするには、デバイスタブのデバイステストセクションを使用します。

5.1.2 アプリケーションショートカットの使用

デバイスコントロールセンターソフトウェアでは、SpeechMikeのキーで他のアプリケーションを起動およびコントロールすることができます。

デバイスコントロールセンターソフトウェアには、SpeechMikeをDragon NaturallySpeakingスピーチ認識ソフトウェアおよびMicrosoft Powerpointですぐに使用できるようにするプリインストール機能があります。その他のアプリケーションの他の特性をプログラムすることができます。

1. インストール中にデバイスコントロールセンターを自動的に起動するオプションを選択している場合、Windowsタスクバーの通知エリアにアイコンが表示されます。プログラムをマニュアルで起動するには、Windowsスタートメニューを開きすべてのプログラム > Philips Speech Control > Philips Device Control Centerを選択します。
2. Windowsタスクバーの通知エリアにあるアプリケーションアイコンを右クリックし、「アプリケーションコントロールを有効にする」を有効にします。このオプションを無効にした場合、設定とボタンはそのアプリケーションで機能しません。



注記

他のアプリケーションをコントロールしているときに誤って録音してしまわないように、アプリケーションショートカットを使用時はフィリップスSpeechExecソフトウェアを終了します。

デフォルト特性

デフォルト特性は、アプリケーションに特性を割り当てていないときに自動的に適用されます。この特性は、SpeechMikeでDragon NaturallySpeakingをコントロールするために設定します。次の設定が規定されています。

SpeechMikeキー	割り当てたショートカット
● 録音	録音（押してディクテーション）
再生再生	カーソル位置から再生
◀◀ 巻き戻し	カーソルを後ろに動かす
▶▶ 早送り	カーソルを前に動かす
•EOL/••PRIO	後ろにマーク
INS/OVR	修正ウィンドウを開く
–i– インストラクション	2を選択

Powerpoint特性

この特性を使って、SpeechMikeでPowerpointプレゼンテーションをコントロールします。次の設定が規定されています。

SpeechMikeキー	割り当てたショートカット
● 録音	黒色画面
▶II 再生/停止	白色画面
◀◀ 巻き戻し	前のスライドに戻る
▶▶ 早送り	次のスライドに進む
•EOL/••PRIO	スライドショーの終了
INS/OVR	カーソルの表示/非表示

注記

フィリップスは、ショートカットはバージョンと言語により異なるため、割り当てたすべてのショートカットが正しく機能することを保証しません。

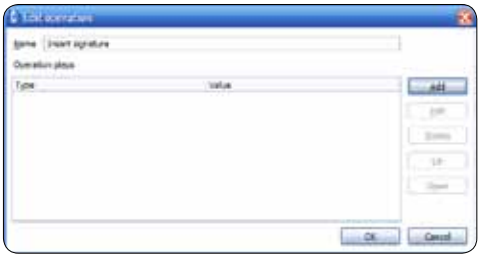
カスタムプロファイルのプログラム
その他のアプリケーションのショートカットをプログラムし、SpeechMikeのキーでアプリケーション機能をコントロールすることができます。

1 ドッキングステーションがUSBケーブルでパソコンに接続されていること、およびディクテーションマイクロホンへのワイヤレス接続が確立されていることを確認します。
2 インストール中にデバイスコントロールセンターを自動的に起動するオプションを選択している場合、Windowsタスクバーの通知エリアのアイコンをクリックしてプログラムを開きます。プログラムをマニュアルで起動するには、Windowsスタートメニューを開きすべてのプログラム > Philips Speech Control > Philips Device Control Centerを選択します。



3 アプリケーションタブで、Addボタンをクリックして新しい特性を作成します。
4 実行可能なアプリケーションを検索、選択し、OPENをクリックします。
選択したアプリケーションの特性が特性リストに追加されます。
注記
設定中はダーゲットアプリケーションを終了してください。デバイス構成設定を保存するときアプリケーションを開きます。

5 ボタン列からボタンを選択し、...アイコンをクリックしてショートカットを割り当てます。キーを押してリリースする別のショートカットを割り当てることができます。
ショートカットエディタウィンドウが表示されます。



6 ショートカットの名前を入力し、Addボタンをクリックしてショートカットに動作を追加します。次のオプションが使用できます。
- ホットキー：キーボードショートカットの割り当て
- テキスト：SpeechMikeのキーを押したときに挿入されるテキストを入力します。
- SpeechMikeのキーを押してアプリケーションを起動します。
- マウスボタン
- Dragon NaturallySpeakingコマンド
- 遅延



7 すべてのショートカットにひとつまたは一連の動作を追加することができます。
8 Applyボタンをクリックして新しい設定を保存します。

注記

デバイスコントロールセンターは、フィリップス*SpeechExec*ソフトウェアのアプリケーションショートカットのプログラムには使用できません。フィリップス*SpeechExec*のショートカットは*SpeechExec*の*General settings*から設定可能です。詳細については*SpeechExec*アプリケーションヘルプを参照してください。

ヒント

アプリケーションコントロール設定は、ファイルに保存して後でインポートし、複数のデバイスに同じ構成設定を適用することができます。

5.1.3 ファームウェアの更新

SpeechMikeはファームウェアと呼ばれる内部プログラムでコントロールされています。SpeechMikeの購入後、ファームウェアの新しいバージョンがリリースされています。

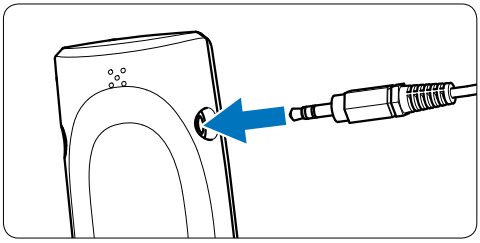
1. www.philips.com/dictationよりSpeechMikeモデルのファームウェアアップデートをダウンロードしてください。
2. ドッキングステーションをACチャージャーで壁コンセントに接続し、USBケーブルでパソコンに接続してください。ディクテーションマイクロホンは、ドッキングステーションのドッキングスロットに設置してください。
3. インストール中にデバイスコントロールセンターを自動的に起動するオプションを選択している場合、Windowsタスクバーの通知エリアの アイコンをクリックしてプログラムを開きます。プログラムをマニュアルで起動するには、Windowsスタートメニューを開きすべてのプログラム > Philips Speech Control > Philips Device Control Centerを選択します。
4. Deviceタブで、Firmware upgradeをクリックします。
5. Importボタンをクリックし、インポートするファームウェアファイルがあるフォルダを選択します。
6. Upgradeボタンをクリックして新しいファームウェアをインストールします。
   - ファームウェアアップグレードは*30*秒程度かかります。
   - ファームウェアアップグレード中、SpeechMikeのインジケーターライトが点滅します。
   - ファームウェアアップデートが終了したら、緑色の電池インジケーターが点灯します。

警告

ファームウェアアップグレード中ドッキングステーションからディクテーションマイクロホンを外さないでください。製品が損傷する場合があります。

5.2 ヘッドセットまたは外付けマイクロホンで録音

互換性のあるヘッドセットまたは外付けマイクロホンをSpeechMikeに接続します。外付けマイクロホンを接続した場合、内蔵マイクロホンはオフになります。



JAPANESE

6 技術データ

接続性
- ワイヤレス接続の動作範囲は最大10メートル（33フィート）
- USB: ミニUSB 2.0
- DC: 6 V
- ヘッドセット: 3.5 mm

マイクロホン
- マイクロホンタイプ: エレクトレットコンデンサーマイクロホン
- マイクロホンカートリッジ: 10 mm
- 特性: 単指向性
- 周波数応答: 100 – 7500 Hz
- マイクロホン感度: –37 dB @ 1 kHz
- 信号対雑音比: > 70 dBA

スピーカー
- 内蔵30 mmラウンド、ダイナミックスピーカー
- 音響周波数応答: 300 – 7500 Hz
- 出力: > 200 mW

仕様
- 製品サイズ（W x D x H）: 45 × 165 × 30 mm / 1.8 × 6.5 × 1.2インチ
- 重量: 125 g / 4.4 oz（電池を含む）

システム要件
- Pentium III、500 MHzおよび512 MB RAM、推奨: Pentium IVまたは同等以上、1 GHzおよび1 GB RAM
- SpeechExec用に100 MBハードディスク領域、Microsoft .NET Framework用に250 MB
- 空いた1つのUSBポート
- LAN用推奨最小転送速度: 100 Mbit/s
- Windows Vista（Service Pack 1）、Windows XP（Service Pack 3）

電源
- 電池タイプ: フィリップス単4Ni–MH充電式電池（LFH9154）2本または単4電池（LR03またはR03）2本
- 電源供給：6 V DC / 850 mA
- 録音最大7時間（フィリップス充電電池LFH9154）
- フル充電時間: 2.5時間

環境仕様
- 2002/95/EC（RoHS）適合
- 無鉛はんだ付け製品

動作条件
- 温度: 5° – 45° C / 41° – 113° F
- 湿度: 10 % – 90 %

オプション付属品
- フィリップスノイズキャンセリングヘッドセットLFH3090
- フィリップスSpeechMike Airドッキングステーション LFH3050
- フィリップス単4Ni–MH充電式電池LFH9154
- フィリップス電源LFH9146

7 よくある質問

再起動後OSが反応しない

フィリップスSpeechMikeを特定のUSBハブで使用すると、パソコン起動後OSの反応が停止する場合があります。

PC起動前にSpeechMikeの接続を外し、起動後に再接続してください。USBハブを交換するか、SpeechMikeを直接パソコンのUSBポートに接続することを推奨します。

SpeechMikeがまったく機能しない

パソコンメーカーの中には、USBポートの出力を100mAに制限している場合もあります。これらのポートではSpeechMikeが正しく機能するだけの電力を提供することができない場合があります。

ACチャージャーを使用してください。

セルフ電源ハブでSpeechMikeを接続してください。

SpeechMikeが入力コマンドに反応しない

ドッキングステーションへのワイヤレス接続が切断している場合があります。

ワイヤレス接続をチェックしてください。

本ユーザーマニュアルに記載されるペアリング方法を実行してください。

ディクテーションマイクロホンの電源が入らない

電池の充電量が非常に少なくなっています。

ディクテーションマイクロホンを充電してください。

ディクテーションマイクロホンがドッキングステーションに接続されない

ペアリングがリセットされているか、ディクテーションマイクロホンが他のドッキングステーションとペアリングされています。

本ユーザーマニュアルに記載されるペアリング方法を実行してください。

SpeechMikeをパソコンに接続しているが音声がパソコンのスピーカーからしか聞こえない

Windows XPで一度に再生できるデバイスは1つのみで、SpeechMikeをインストールした後に他の再生デバイスを有効にした場合、再生デバイス設定を「SpeechMike Air」に戻さなければならない場合があります。

- スタート > コントロールパネル > サウンドおよびオーディオデバイス > オーディオ（タブ）から設定します。
- または、ツールバーにスピーカーアイコンがある場合はそれを右クリックし、オーディオプロパティの調整を選択します。

Windows Vistaで一度に再生できるデバイスは1つのみですが、デバイスの再生を無効にした場合、録音も無効になります。右クリックで「無効にしたデバイスを表示」を選択し、設定を変更しなければならない場合があります。

- スタート > コントロールパネル > サウンド > 再生（タブ）から設定します。
- または、ツールバーにスピーカーアイコンがある場合はそれを右クリックし、再生デバイスを選択します。

連邦通信委員会通知

本機器はFCC規則第15章クラスBデジタルデバイスの規制に適合することが試験済みです。これらの規制は、住居への設置で有害な干渉から適切な保護を提供するためのものです。本機器は、無線周波エネルギーを生成、使用、放出し、指示どおりに設置または使用しないと無線通信に有害な干渉を引き起こす場合があります。ただし、ある一定の設置方法で干渉が生じないことを保証するものではありません。本機器はラジオやテレビ受信に有害な干渉を引き起こします。これは当該機器の電源をオン/オフにすると判断できます。この場合、ユーザーには次の方法のいずれかまたは複数で干渉を是正することが推奨されています。

- 受信アンテナの向きや位置を変更する。
- 機器とレシーバーの距離を離す。
- 機器をレシーバーが接続されているものとは異なる回路のコンセントに接続する。
- 販売代理店またはラジオやテレビの専門技術者に相談する。

変更

FCCでは、本デバイスにフィリップスが明示的に承認しない変更または改良を行った場合、ユーザーが当該機器を使用する権限が無効になる場合があることを、ユーザーに通知することを要求しています。

ケーブル

本デバイスへの接続は、FCC規則および規制に適合するように、金属RFI/EMIコネクターフードでシールドされたケーブルで行ってください。

カナダ国内向け通知

本クラスBデジタル機器はカナダ干渉発生機器規定のすべての要件を満たしています。

Avis Canadien

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

適合宣言

モデル番号:	LFH3000、 LFH3010、LFH3020
商標名:	Philips SpeechMike Air
責任団体:	Philips Speech Processing
住所:	64 Perimeter Center East, Atlanta, GA 30346, USA
電話番号:	888-260-6261
ウェブサイト:	www.philips.com/dictation

LFH3000、LFH3010、LFH3020

FCC基準への適合性を試験済み

家庭または業務用

本デバイスはFCC規則の第15章に適合します。動作は次の2つの条件に該当します。1) 本デバイスが有害な干渉を引き起こさないこと。2) 望まない動作を引き起こす可能性のある干渉を含むすべての干渉を本デバイスが受信すること。

CE適合宣言

フィリップスは、本製品がEUの関連ガイドラインに適合することを確認します。

フィリップスwww.philips.com/dictationからプロフェッショナルディクテーション製品シリーズを検索してください。

仕様は予告なく変更されることがあります。
商標はローヤル・フィリップス・エレクトロニクス社または各所有者の所有に属します。
© 2009 Royal Philips Electronics.複製・転載禁止
文書バージョン1.0、12/07/2011。